

イワシ類シラスの漁場形成の研究

(我が国周辺漁業資源調査)

(予算区分 受託 研究期間 平成7年度～)

担当：資源海洋科 海野幸雄

【研究の背景とねらい】

静岡県におけるイワシ類シラスの水揚金額は年間40億円を超えており、沿岸漁業で最も重要な魚種の一つとなっています。

イワシ類シラスについて水揚統計資料の収集、漁獲物の全長組成や卵稚仔の分布などの生物学的特徴を把握することで、シラス水揚量の変動特性、漁場来遊群の大きさと沿岸海況の短期変動との関係について検討し、最終的には、シラス漁場形成機構を解明します。

【これまでに得られた成果】

- ・黒潮大蛇行時にはカタクチイワシシラス(カタクチシラス)が不漁となることが分かりました。また、暖水波及等の沿岸海況の短期変動は、シラスの漁場加入に大きな影響を与える要因の一つとなっていました。
- ・漁獲の季節変動には4パターンが認められ、初漁期にそれを利用した漁況予測の可能性が見出されました。
- ・漁期前に駿河丸の調査結果に基づきシラス漁況の長期(1~2ヵ月)予測を行うとともに、漁期中に沿岸海況の短期変動に基づくシラス漁況の短期(1~2週間)予測を試み、その結果を漁業者に広報しました。
- ・近年、漁獲量の主体はカタクチシラスでマイワシシラス(マシラス)は少量でしたが、平成20年に376トン、平成23年に441トン、平成26年に568トンと3年おきにマシラスの漁獲量が増加しています。これは、マイワシ太平洋系群産卵量の増加傾向に呼応した傾向です。

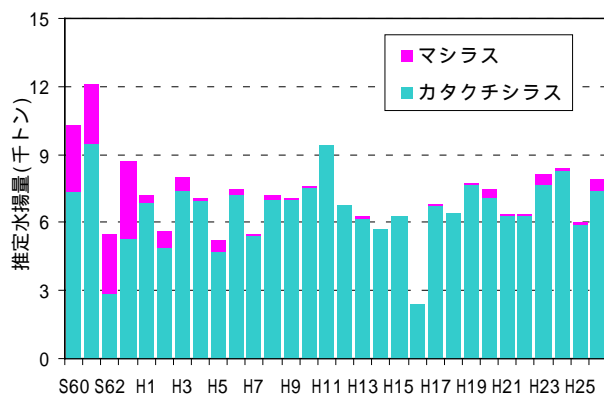


図1 県内主要6港におけるシラス種別推定水揚量の推移(平成16年は黒潮大蛇行で不漁)

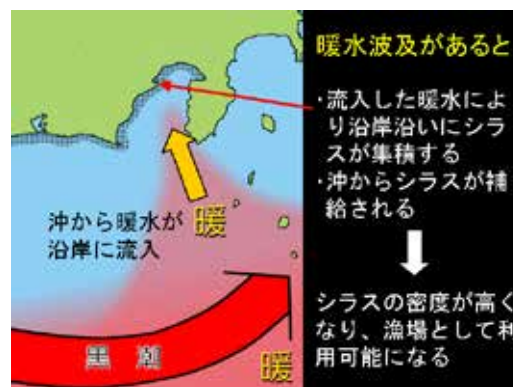


図2 シラス漁況に暖水波及が与える影響の推定模式

【期待される成果】

- ・漁況予測が可能になることで、シラス漁業者は効率的な操業が、シラス加工業者は在庫管理等の面において計画的な経営が可能となります。

【今後の計画】

- ・漁場加入前のイワシ類シラスについて精度の高い採集調査を実施し、漁場加入に至るまでの機構やシラス漁況との関連について検討します。
- ・漁場来遊量、海況の短期変動等の検討を行い、シラス漁況の短期予測手法を確立します。

(作成 平成27年4月)